あなたの金融リテラシー何点？
～全国3万人調査の問題に挑戦～

まな部 第62回（2026年10月17日開催）出題問題

この資料は、2026年10月17日に開催した勉強会「まな部 第62回」で実際に使用した出題問題を、Web公開用にまとめたものです。

正解・全国の正答率・解説は、この資料の巻末にまとめています。まずはご自身で問題を解いてみてから、巻末をご覧になるのがおすすめです。

文中の専門用語には、その場で意味がわかるよう（　）で簡単な説明を付けています。

スマホで手軽に解きたい方は、Googleフォーム版でも同じ問題に挑戦できます。
→ https://forms.gle/Sof2wwMR6Xg6zKQu6

主催: まな部（名古屋エリアで約10年続く、初心者向け勉強会コミュニティ）

出典
（出所）金融経済教育推進機構（J-FLEC）「金融リテラシー調査」（2025年）
（出所）金融経済教育推進機構（J-FLEC）「金融リテラシー調査」（2022年）※旧・金融広報中央委員会実施分

この資料の構成
1. オープニング公式クイズ（5問）
2. ブロック1：家計管理・カード・ローン（3問＋ボーナス設問1問）
3. ブロック2：金利・複利・インフレ（4問）
4. ブロック3：保険・資産形成（4問＋考えてみる問い1問）

巻末　正解と全国の正答率・解説

1. オープニング公式クイズ（5問）

J-FLEC（金融経済教育推進機構。2024年までは「金融広報中央委員会」が調査を実施していました）が公表した「金融リテラシー調査」の報告書に掲載されている設問を基に出題します。ご自身の得点を計算して、巻末の全国平均・愛知県平均と比べてみましょう。

※ 問1〜5は、報告書原文の選択肢にもとづいて出題します（初心者向けの言い換え・注釈を加えている箇所を除く）。

問1（家計の行動）

家計の行動に関する次の記述のうち、適切でないものはどれでしょうか。1つ選んでください。

1. 家計簿などで、収支を管理する
2. 本当に必要か、収入はあるかなどを考えたうえで、支出をするかどうかを判断する
3. 収入のうち、一定額を天引きにするなどの方法により、貯蓄を行う（いわゆる「天引き貯蓄」）
4. 支払いを遅らせるため、クレジットカードの分割払い（代金を複数回に分けて支払う方法）を多用する
5. わからない

あなたの解答：（　　）

問2（人生の3大費用）

一般に「人生の3大費用」（人生の中でも特に大きな金額が必要になる3つの支出）といえば、何を指すでしょうか。1つ選んでください。

1. 一生涯の生活費、子の教育費、医療費
2. 子の教育費、住宅購入費、老後の生活費
3. 住宅購入費、医療費、親の介護費
4. わからない

あなたの解答：（　　）

問3（金利上昇局面の考え方）

金利が上がっていくときに、資金の運用（預金等でお金を増やすこと）、借入れ（お金を借りること）について、適切な対応はどれでしょうか。1つ選んでください。

（固定金利＝契約時に決めた金利がその後変わらない仕組み、変動金利＝市場の金利動向に応じて定期的に見直される仕組み）

1. 運用は固定金利、借入れは固定金利にする
2. 運用は固定金利、借入れは変動金利にする
3. 運用は変動金利、借入れは固定金利にする
4. 運用は変動金利、借入れは変動金利にする
5. わからない

あなたの解答：（　　）

問4（お金が2倍になる年数：72の法則）

「72の法則」という、お金がおよそ何年で2倍になるかを概算できる考え方があります。

72 ÷ 金利（%） ≒ お金が2倍になるまでの年数（目安）

10万円の借入れがあり、借入金利は複利（利息にもさらに利息がつく計算方法）で年率20%です。返済をしないと、この金利では、何年で残高（借金の額）は倍になるでしょうか。次の中から選んでください。

1. 2年未満
2. 2年以上5年未満
3. 5年以上10年未満
4. 10年以上
5. わからない

あなたの解答:（　　）

（余白: 実際に72÷20を計算してみましょう →　　）

問5（トラブル時の相談窓口）

金融商品（預金・保険・投資商品など）についての契約トラブルが起きたときの相談窓口・制度として、適切でないものはどれでしょうか。1つ選んでください。

1. 消費生活センター
2. 金融ADR制度（金融機関とのトラブルを裁判より簡易に解決するための、裁判以外の紛争解決の仕組み）
3. 格付会社（企業や金融商品の信用度を評価する会社）
4. 弁護士

あなたの解答:（　　）

2. ブロック1：家計管理・カード・ローン

ここからは、全国の調査で実際に出題された設問です。選択肢A〜Dの中から1つ選んでください。

Q5（クレジットカード）

家計管理やクレジットカードに関する次の記述のうち、適切でないものはどれでしょうか。1つ選んでください。

A. クレジットカードを自分の収入に合わせて計画的に利用する
B. クレジットカードの未決済額（まだ支払っていない利用残高）は、実質的には借金である
C. 手数料（利用にあたって追加でかかるお金。ここでは金利に相当する負担のこと）は、リボ払い（毎月の支払額を一定額に抑え、残りを繰り越していく返済方法）では発生するが、分割払い（代金を複数回に分けて支払う方法）では発生しない
D. 利用代金を支払わないと、以降のカード使用ができなくなることがある

あなたの解答:（　　）

Q30（住宅ローン）

住宅ローンに関する次の記述のうち、適切なものはどれでしょうか。1つ選んでください。

A. ローンを組んで住宅を購入するよりも、生涯賃貸住宅に住み続ける方が、圧倒的に資金負担が小さい

B. 住宅ローンの返済方法には、元利均等方式と元金均等方式（返済額の内訳の決め方の違い）があるが、総返済額はどちらも同じである

C. 住宅ローンの金利タイプには変動金利型や固定金利型があるが、固定金利型の方が変動金利型よりも常に有利である

D. 住宅ローンにかかる総返済額（利息を含めた支払い総額）を減らすためには、頭金（購入時にまとまって支払うお金）をできるだけ多く用意するとともに、可能な範囲で繰り上げ返済（本来の返済スケジュールより早く元金を返すこと）を行うのが有効である

あなたの解答: （　　）

Q33（預金保険制度・ペイオフ）

預金保険制度（通称：ペイオフ。金融機関が破綻した場合に、1金融機関ごとに預金者1人あたり元本1,000万円とその利息を保護する制度）で保護される預金の種類に関する次の記述のうち、適切なものはどれでしょうか。1つ選んでください。

A. 普通預金だけが保護される

B. 普通預金と定期預金は保護される

C. 普通預金、定期預金、外貨預金（円ではなく外国の通貨で預ける預金）など全ての種類の預金が保護される

D. 自己責任の原則から、いかなる預金も保護されない

あなたの解答: （　　）

ボーナス設問 Q11（生活防衛資金・正解のない問い）

この設問には「正解」はありません。まず自分について、正直に答えてみてください（他の人に見せる必要はありません）。

あなたは、病気・失業などの「万一」に備えて、生活費3か月分程度のお金を、すぐに使える形で確保していますか？

A. 確保している　　B. 確保していない

あなたの解答（自己申告・非公開）: （　　）

3. ブロック2：金利・複利・インフレ

ここからは数字を使って計算する問題が続きます。落ち着いて取り組んでみましょう。

Q18（複利1年後）
100万円を、年利2%の複利（利息にもさらに利息がつく計算方法）で1年間預けます。1年後の残高はいくらになるでしょうか。計算して記入してください。
あなたの解答:　　万円

Q19（複利5年後）
同じ条件（100万円・年利2%の複利）で5年間預けた場合、5年後の残高は「110万円」と比べてどうなっているでしょうか。
A. 110万円より多い
B. 110万円より少ない
C. 110万円と同じ
あなたの解答:（　　）

Q20（インフレと購買力）
インフレ率（物価が上がっていく割合）が年2%、預金で受け取れる利息が年1%だとします。1年後、今日と同じ金額のお金を使うとき、買える物の量はどうなっているでしょうか。
A. 今日より多く買える
B. 今日と同じだけ買える
C. 今日以下しか買えない
あなたの解答:（　　）

Q22（金利と債券価格）
一般的に、市場の金利（お金を借りたり預けたりするときの利率）が上がると、すでに発行されている債券（国や企業がお金を借りるために発行する有価証券）の価格は、通常どうなるでしょうか。
A. 上がる
B. 下がる
C. 変わらない
あなたの解答:（　　）

4. ブロック3：保険・資産形成

Q25（保険の基本的な働き）
保険の基本的な働きに関する次の記述のうち、適切なものはどれでしょうか。1つ選んでください。
A. リスクの発生頻度は高いが、発生すると損失が大きい場合に有効である
B. リスクの発生頻度は低いが、発生すると損失が大きい場合に有効である
C. リスクの発生頻度は高いが、発生すると損失が小さい場合に有効である
D. リスクの発生頻度は低いが、発生すると損失が小さい場合に有効である
あなたの解答:（　　）

Q26（生命保険の見直し）

子供が独立した55歳の世帯主が生命保険を見直す場合、適切なものはどれでしょうか。他の事情に変化はないものとします。1つ選んでください。

A. 死亡保障（万一のときに家族の生活を支えるための保険金）の増額を検討する
B. 死亡保障の減額を検討する
C. 特に見直す必要はない

あなたの解答: （　　）

Q28（保険に関する記述）

保険に関する次の記述のうち、適切でないものはどれでしょうか。1つ選んでください。

A. 学生であっても20歳以上になると国民年金保険料を納める必要がある
B. 自動車事故を起こした場合の損害賠償は、自賠責保険（法律で加入が義務付けられている保険）により全額カバーされる
C. 生命保険は、自分や家族の変化に合わせて必要性や保障額を見直すことが望ましい
D. 医療保険では、加入前に発症した病気について補償されないことがある

あなたの解答: （　　）

Q21-4（分散投資）

次の記述は正しいでしょうか、誤りでしょうか。

「1社の株を買うことは、通常、株式投資信託（複数の会社の株などに分散して投資する金融商品）を買うよりも、安全な投資である。」

A. 正しい　　B. 誤り

あなたの解答: （　　）

Q6（投資するか、しないか・正解のない問い）

この設問には「正解」はありません。自由に考えてみましょう。

あなたが10万円を投資すると、確率は五分五分で、「2万円の値上がり益」か「1万円の値下がり損」のどちらかが起こるとします。あなたは、この投資をしますか？

A. 投資する　　B. 投資しない

あなたの解答（任意）: （　　）

すべての問題は以上です。お疲れさまでした。採点のしかたと、全国の正答率・解説は、この続き（巻末）でご案内します。

巻末：正解と全国の正答率・解説

① オープニング公式クイズ（問1〜5）※2022年調査時点の報告書掲載分

問	正解	全国正答率	一言解説
問1	4（支払いを遅らせるための分割払いの多用）	51.8%	クレジットカードの分割払いにも、手数料（実質的な金利）がかかる場合がある点が見落とされがち。
問2	2（子の教育費、住宅購入費、老後の生活費）	46.2%	一般に「人生の3大費用」と呼ばれる、特に大きな金額が必要になる代表的な支出。
問3	3（運用は変動金利、借入れは固定金利）	43.4%	金利が上がる場面では、増える側（運用）は変動、支払う側（借入れ）は固定で確定させるのが有利。
問4	2（2年以上5年未満）	40.8%	「72の法則」（72÷金利%≒2倍になる年数）を使うと、72÷20≒3.6年と概算できる。
問5	3（格付会社）	70.8%	格付会社は投資判断の参考情報を出す機関で、消費者のトラブル相談窓口ではない。金融ADR制度は正しい相談先。

（注）問1〜5は、2022年調査時点の報告書に掲載されていた設問を基にしています。

巻末：正解と全国の正答率・解説（つづき）

② 知識問題（11問）※2025年調査

問	正解	全国正答率	一言解説
Q5	C（リボ払いでは発生するが分割払いでは発生しない、は誤り）	47.2%	分割払い（一般に3回以上）にも手数料（実質的な金利）がかかる場合があり、約半数が誤解している。
Q30	D（頭金を多く用意し、可能な範囲で繰り上げ返済を行う）	44.1%	頭金や繰り上げ返済は借入残高を早く減らし、支払う利息の総額を抑える効果がある。
Q33	B（普通預金と定期預金は保護される）	35.5%	ペイオフは1金融機関ごとに預金者1人1,000万円＋利息まで保護。外貨預金は対象外。
Q18	102万円（100万円×1.02）	64.8%	複利でも1年目は単利と同じ増え方。2年目以降で差が出る（次のQ19で確認）。
Q19	110万円より多い	42.6%	複利では2年目以降、前年までの利息にも利息がつくため、単利計算の110万円より多くなる（実際は約110.4万円）。
Q20	今日以下しか買えない	55.2%	物価上昇率（2%）が受け取る利息（1%）を上回るため、実質的な購買力（買える量）は目減りする。
Q22	下がる	25.7%	市場金利が上がると、利回りが低いまま発行済みの債券は相対的に見劣りし、価格が下がる。出題した11問の中で最も正答率が低かった問題。
Q25	B（発生頻度は低いが、発生すると損失が大きい場合に有効）	46.9%	保険は「確率は低いが、起きると大きな損害になる」ことに備える仕組み。
Q26	B（死亡保障の減額を検討する）	46.9%	子が独立すると必要な保障額が下がるため、保険料負担の見直し（減額検討）が一般的な考え方。
Q28	B（自賠責保険により全額カバーされる、は誤り）	56.6%	自賠責保険には支払い上限があり、超える損害賠償は任意保険で補うのが一般的。
Q21-4	誤り（1社の株の方が安全、は誤り）	51.6%	複数の会社に分散する株式投資信託の方が、1社集中よりも値動きが平均化され、リスクが低い。

③ 正解のない問い（Q11・Q6）

Q11（生活防衛資金）

正解はありません。全国で「確保している」と回答した人の割合は 54.9%（2025年）／57.0%（2022年）でした。生活防衛資金（病気・失業などで収入が急に減ったときに備え、すぐ使える形で確保しておくお金）の確保状況を尋ねた設問です。

Q6（投資するか、しないか）

正解はありません。全国の回答は「投資する」27.2%／「投資しない」72.8%（2025年）でした。期待値で見るとこの投資は平均してプラスになる計算（2万円×50%－1万円×50%＝5,000円のプラス）ですが、それでも多くの人が「投資しない」を選びます。これは「損失回避」（同じ金額でも、得の喜びより損の痛みを強く感じる心理的な傾向）と呼ばれる、行動経済学（人の心理的な傾向を踏まえて経済行動を説明する学問分野）の代表的な現象です。「投資しない」を選んだ方が悪いわけでは決してありません。

出典

（出所）金融経済教育推進機構（J-FLEC）「金融リテラシー調査」（2025年）
（出所）金融経済教育推進機構（J-FLEC）「金融リテラシー調査」（2022年）※旧・金融広報中央委員会実施分

最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。まな部では、このような初心者向けの勉強会を月1回程度、名古屋エリアで開催しています。